第41回組合員海外酪農視察研修

カナダ・ホルスタイン酪農視察研修・審査研修

今年度の、『第41回組合員海外酪農視察研修』が2012年11月６日～11日、５泊７日の日程でデーリィマン社との共催で行われ、その視察研修に参加させて頂きましたので報告致します。

〔酪農視察研修〕

11月６日㈫

北海道からの参加者は12時に千歳空港に集合し団結式が行われ、当組合専務や参事らは世界ホルスタイン会議出席のためすでにカナダに出発しているため、デーリィマン社の西本専務、授精師協会の新澤常務の挨拶をいただき、昼食後、成田空港へと向かいました。本州からのツアー参加者３名や添乗員と合流し総勢13名が揃いましたが、空港への到着が遅れたため、成田では自己紹介する間もなくトロント行の飛行機に乗り込みカナダツアーが始まりました。12時間のフライトの後、入国審査を終え２時間ほどバスに揺られながらナイアガラフォールへと向かいましたが、ナイアガラには到着が１時間半ほど遅れたためホテルのチェツクインを後回しにし、安着祝いを兼ねての遅い夕食となりました。食事をしながら自己紹介が行われ、酪農家、授精師、授精所、雑誌編集者など、職種も様々な中、交流を深めた後ホテルへと向かいました。

11月７日㈬

朝、部屋のカーテンを開けるとナイアガラフォールが目の前に姿を現し、異国の地である事を実感しました。朝食後、現地ガイドのテリー鈴木さんと合流、バスに乗り込みナイアガラフォールへと向かい、滝の上流の水門と滝壺を見学しました。滝壺は上流の水門が閉じられているとは言え物凄い爆音で風向きが悪いせいかドシャブリの雨のようで、見学ポイントにたどり着くまでに皆、びしょ濡れになっていました。

ナイアガラフォールの見学を終えバスに乗り込むと、いよいよ牧場見学の始まりです。見学する牧場は４戸で、昨年と同じコースでした。

① サミット ホルム ホルスタイン

この牧場の搾乳牛頭数は360頭で出荷乳量は4,400トン、１頭平均の乳量は12,500kg、（３回搾乳）で１日に500kgのバターファットを出荷している。耕地面積は320haで餌の収穫は全て業者に委託し、牧場の搾乳作業等にはフルタイム２人、パートタイム10人を雇用している。収入の95%は生乳販売によって得られ、残りの５%は個体販売により得られている。初生犢は２週間以内に販売され、価格は6,000円程度、初妊牛は16～25万円程度の値段で取引されている。搾乳牛に給与されるTMRは乾草、コーンサイレージ、ヘイレージ（80%アルファルファ）、ハイモイスチャーコーン、綿実、大豆粕でタンパク17%に調整され、一頭平均の乾物摂取量は25kg以上との説明を受けました。バンカーサイロにはハイモイスチャーコーンも貯蔵されており大変質のよいもので、通年給与できると説明されていました。

ハイモイスチャーコーン

牛床には砂（トン当り約800円）が毎日１頭当たり25kg入れられており清潔に保たれていました。授精は分娩後55日から行われ70日目で発情の来ない牛は治療し、さらに２週間以内に発情の来ない牛は再度治療される。平均授精回数は2.8回、未経産においては1.6回で13～14ヵ月で初回授精が行われていた。使用される精液は70%がシーメックスの精液で、ブラウラー、フィーバー、ジョーダン、アシュラーなど、雌雄判別精液は使用せず、受胎の悪い牛にはF１生産用の種雄牛を使用。

② フラドン ホルスタイン

牧場は世界ホルスタイン会議のツアーに組み込まれておりミネソタ州のツアーの皆さんと一緒になり、牛舎内は人が入り乱れ大変な混雑でした。

牛舎の外観の基礎部分は石造りで築100年以上たち、牛舎内の柱は幾度も石灰塗装が繰り返され太くなり長い歴史を感じる牛舎でした。

フラドン ホルスタインは後世に残る牛群ファミリーを作ることを目標に、兄弟と３人の息子で営まれている牧場です。ジョディファミリーを中心にアディーンのファミリーも今では増えているそうで、EX30頭、VG45頭、GP12頭を飼養しています。耕地面積は約200haで飼料の95%を自給し、５％（大豆）を購入しています。牧場の収益の60%～70%は個体販売によるもので、改良の基本的な考え方は、タイプ重視の長持ちする牛で、１頭平均の乳量は10,000kg、F4.2%、P3.3%でミルククォーター制度がある為、乳脂率を上げる改良も行っているとの事でした。今、主に使用している種雄牛はウインドブルック、フィーバー、レッドキャリアの種雄牛、ジェノミック評価によるヤングサイアー（ゴールドウイン、スノーマンの息子）などです。また大変スタイルの良い無角因子の種雄牛Colt-Red（７H10904）の娘牛も見る事ができました。

Colt-Redの娘牛

③ ボスデール ホルスタイン

この牧場も世界ホルスタイン会議のツアーに組み込まれており大勢の見学者で賑わっていました。1958年にホルスタインの牧場を始め1978年から体審を実施し、父の代から養豚との複合経営を行っているそうで、耕作面積は485haで全飼料を自給している。EX55頭、VG115頭、１頭平均の能力はM10,500kg　F4.0%　P3.2%でタイプ&プロダクションの両立を目指しています。

牛舎は対尻式のストールが２列並び、その他に分娩や治療に使う独房が15ほどあり、パイプラインのシステムも入り組みとても複雑でガイドのテリー鈴木さんもここのパイプラインのシステムは何回見ても理解出来ないと言っていました。私は広い牛舎に感じましたが150頭１列の対尻式牛舎よりは遥かに作業動線が短い印象を受けました。

ボスデール　ホルスタインの巨大牛舎

現在使っている主な種雄牛はフィーバー、ウインドブルック、ローソリティでヤングサイアーは使用していない。

④ クォリティ ホルスタインズ

この牧場は工業団地と隣り合わせの場所に位置しながら、数々の名牛を世に送り出してきた牧場で、日本でも酪農家なら一度はその名を聞いたことがある有名な牧場です。

牧場に到着した時には既に搾乳が開始されておりましたが、皆素晴らしい乳房と骨格構造を持ち合わせた牛たちばかりで、以前この牧場を訪れた時にまだ生存していたバリアント　フランの一族が繁栄を続けておりました。ローヤルウインターフェアの出品牛は既に会場入りしており独房の幾つかは空いている状態でしたが、大変レベルの高い牧場でした。

11月８日㈭

朝８時、早朝より市内観光の為バスに乗り込み現地ガイドの方と市庁舎、トロント大学など観光名所、小さなショッピングセンターを見学しました。地震がほとんど無い地区なので古い石造りの建物が多く見受けられました。

昼食後、ローヤルウインターフェアの会場に移動し、ナショナルホルスタインショウを観戦、審査員は2011年の北海道総合畜産共進会で審査を行ったカラム・マッキンベン氏でした。６時からセールオブスターが同じ会場で開催される為、１日目は未経産２クラスだけの開催となり早々とショウリングを後にしました。

フェアーの会場内を見学し繋留場に足を向けてみると、懐かしい光景が目に飛び込んできました。というのも20年以上前の海外実習でライルヘイブンのショウスタッフとしてローヤルウインターフェアに参加、この会場に数日間寝泊りし、ジャージーのグランドチャンピオンとホルスタインのリザーブグランドチャンピオンの毛刈りを担当させて頂き、プレミアエキジビターも獲得する事が出来た記憶と当時の情熱が鮮明に蘇ってきたからです。繋留場も洗い場もさほど変わらず当時のままでした。当時と違うのは参加する牧場とそのスタッフで、世代が変わり時の長さを感じながら会場を後にしました。

繋留場でのHailey

11月 9 日(金)

この日は朝 7 時30分から審査で、昨日の会場とは違うリコーコロシアムと呼ばれている冬の間アイスホッケーに使われる会場での開催でした。未経産、経産クラスともに乳用強健性に優れた牛が多数出品されており、経産牛においては日本では見る事が出来ないほど素晴らしい乳房を持つ牛が多数出品されていました。 2 日前に見学に訪れたクォリティホルスタインズの牛たちも多数出品されていました。その中の 1 頭はゴールドミッシーの姪で 2 歳シニアクラスに出品され、最終コーナーまで何度もトップを入れ替える激闘を繰り広げていました。最終的にクォリティホルスタインズのこの牛は 2 位に終わってしまいましたが見応えがあるクラスでした。

グランドチャンピオンは評判通りWDE(エキスポ)でシュープリームチャンピオンを獲得したジェン・コムホルスタインのGoldwyn Haileyでした。

11月10日(土)

酪農視察旅行もあと 2 日となりバンクーバーへ移動の朝がやってきました。私は審査研修のためトロントに残らなければならず、一人空港行のバスを見送り、その後ローヤルの会場へと向かいました。この日は 8 時30分よりジャージーショウの経産クラスとシュープリームチャンピオンが決定されます。ジャージーショウはリングオブエクセレンスというホルスタインショウの 1 部 2 部が行われたやや小さ目なリングで行われました。当歳ミルキングクラスから成年クラスまで全てのクラスにおいてみな素晴らしい乳房と四肢を備えていました。

グランドチャンピオンは 4 歳クラスから選出され、WDEでシュープリームチャンピオンを獲得し力強い肋と各部位のバランスがとれ、乳房は形状、付着ともに素晴らしくチャンピオンに最もふさわしい牛でした。

ジャージーチャンピオン決定後すぐに同じ会場でホルスタイン、レッド&ホワイト、ジャージー、エアシャー、ブラウンスイスの 5 大乳用品種によるシュープリームチャンピオン決定戦が行われました。(チャンピオンの選考方法は各品種の審査員が比較審査を行い投票、事務局が集計し決定される)

もちろんチャンピオンはHaileyで他を寄せ付けぬ強さで圧勝に見え、リザーブはレッド＆ホワイトでした。

ジャージーグランドチャンピオン牛Response Vivid

〔審査研修概要〕

カナダ ホルスタイン協会の審査員に11月12日・13日の 2 日間同行し、体格審査の研修をさせて頂きました。研修者は千葉審査部長と私で 6 戸の酪農家で行いました。 1 日目の講師はデーヴィット ウィーゼル氏、 2 日目がジョン ピータース氏で 2 人とも審査員としての経験は豊富でキャリア18年のベテランでした。

線形の評価は日本と同じ 1 ～ 9 で評価しますが、日本のように体型調査のためだけに酪農家を訪れることは無く、業務は全て体型審査として行われ、審査牛に後代検定対象娘牛がいればその牛のデータを後代検定種雄牛の成績を出すために利用しているそうです。

カナダの酪農概況

- 酪農家戸数 約 1 万戸
- 牛群検定実施率 57%

・酪農家１戸当たりの平均搾乳牛頭数65～70頭
・平均乳価　76￠（約60円）

審査員・審査業務の概要

・審査員の人数　20人(全員専従　内女性４名)
・年間審査頭数　260,000頭
・審査員１人当たりの年間審査頭数
　12,000～13,000頭
・審査員１人の平均稼働日数 220～230日
・審査員１日当たりの審査頭数 約60頭
・審査員は乳用種全品種を審査する。
・体型調査として酪農家を訪れることは無く、全て審査として行われる。
・目合わせは年一回、２ヵ月に１回巡回指導がある。
・事務所には行かず自宅から現地へ向かう。
・週５～６日審査を行い週末は休み、遠隔地は２～３週間現地滞在する
・フランス語圏はフランス語が話せる審査員が行う。
・酪農家には２～３ヵ月ごとに審査に訪問するが、審査日程などは実施する審査員が酪農家に直接電話し日程調整を行う。
・特に初産は成長が早い為、同産、同年齢でも点数が上がるのであれば何度でも受検することができる。
・酪農家が交配プログラムを利用するために初産牛だけの審査を実施し、審査終了後、使用したい種雄牛や、授精所、改良したい形質などを審査員が聞き取りを行い、後日交配プログラムのデータが送られてくるシステムが普及している。
・得点の証印は希望者だけに押す。
・ハンディのデータを牛舎から車載しているラップトップに送信し自動的にプリントされる装備が備わっている。(車両には大型バッテリーが搭載され、電源として使用されている。ハンディの充電もOK)

車載された審査機材

研修１日目

３戸の酪農家で約60頭の審査が行われました。事前に審査や線形についての講習は無く体型審査を見学する形で行われ、スコアシートを記入し審査員との比較を行いながら進められました。また日本とは評点の異なる審査標準（尻、乳房、乳用強健、肢蹄）や日本には無い線形形質（腰の強さ、臍の位置、乳房の質、き甲の高さ）があり線形を評価するため個体比較を行いながら進めて行きました。

研修２日目

３戸の酪農家で約65頭の審査を行い、１日目と同様にスコアシートに記入、線形形質、得点の確認を行いました。この日は全て交配プログラムを利用する酪農家で初産中心に行い審査終了後、供試牛１頭を借りて各線形形質の確認を行い研修は終了しました。

審査・線形のポイント

・体の深さは肘からの深さにより線形を決定するが肘と同じ深さなら線形は１になる。
・腰の強さは突起の幅、角度、位置、腰の強さなどによって評価される。
・臍の位置は腰角と坐骨からの距離の比率が６:４のとき線形は５となる。
・後肢側望は蹄冠部のヘアーラインの最後部、飛節の中心、坐骨の前部の３ヵ所が直線になる時，線形は５となる。
・鋭角性は肋の開張、肋骨間の広さなどにより評価し、方向は乳器に向いていることが望ましい。
・初産で胸幅が７ならば乳用強健性はVG以上となることが多い。
・ボディコンディションは棘突起、坐骨と尾根の窪みで判断する。
・前乳房の付着は形状より付着の強さを重視する。
・実際にメジャーで測定できる形質は測定し１センチ刻みで入力を行う。(尻角度、坐骨幅、乳房深さ、後乳房の高さ、後乳房の幅、体高)
・乳房の深さは産次により補正される。(４産以上の牛の場合、乳房底面が飛節＝０センチならば　線形は自動的に４に補正し表示される。)
・後乳房の高さは基本的には陰部からの距離(センチ)を入力するが、陰部と飛節の中間点が後乳房の付着点ならば後乳房の高さは線形５である。

・痙攣肢はEXに成らない。融合乳頭もほとんどの場合EXに成らない。
・EXの同点牛は同点処理するだけで、線形などは入力しない。（2E, 3E）
・EXは3産以上。
・各形質の得点は入力された線形、チェック形質により自動的に計算され、決定得点も同様に自動計算される。

おわりに

酪農視察研修は12名の参加でしたが若い酪農関係者が多く皆、酪農に興味があり、意欲的な人ばかりでとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ローヤルウインターフェアでは北米トップレベルのショウを見学する事が出来、今更ながらレベルの高さを痛感しました。一方、審査研修は一般酪農家で行われ、カナダの体型審査は線形によって各形質の得点が決定されるため、今回の研修は決定得点や配点についての議論はなく、体型審査標準に基づいた全ての線形が得点に反映するため、いかに正確に線形を計測するかが大切であり、線形の重要性を再認識しました。

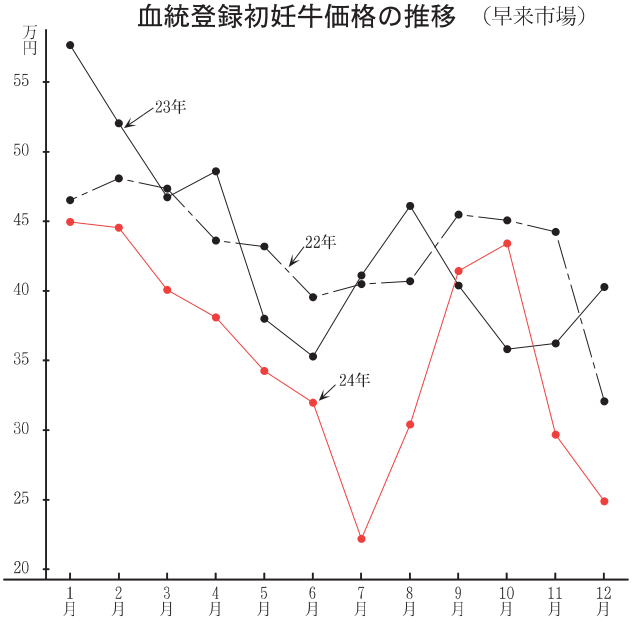
またカナダにはミルククォーター制度があり、規模拡大や新規参入が難しい状況ですが、既存の酪農家はこの制度によって守られています。生乳出荷量に制限があるため牛舎新築時に規模拡大を行う酪農家が少なく、新築牛舎の構造は16間ほどの間口に対ストールと育成フリーストールが並ぶ牛舎が多く見られ、凍結の心配もなく作業効率がとても良い印象を受けました。

今回の研修で、ショウを参観し、様々な酪農家を訪れ、カナダ酪農の現状を確認出来ましたことを今後に役立てて行きたいと思います。

（審査部企画課技師　稲山）

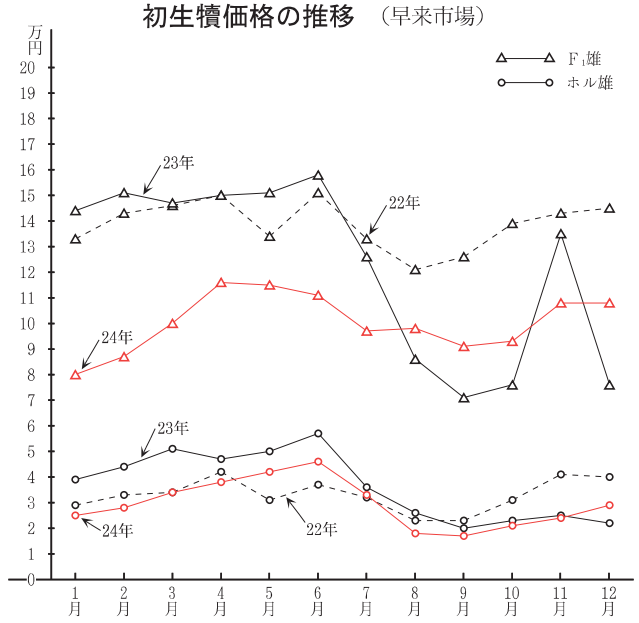
北海道ホルスタイン農協　家畜市場成績

血統登録初妊牛価格の推移　（早来市場）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
24年価格 万円	44.7	44.3	40.0	38.1	34.4	32.2	22.8	30.7	41.3	43.2	30.0	25.4
23年価格 万円	56.9	51.5	46.4	48.2	38.0	35.4	41.0	45.8	40.3	35.9	36.3	40.2

初生犢価格の推移　（早来市場）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
F1雄	8.0	8.7	10.0	11.6	11.5	11.1	9.7	9.8	9.1	9.3	10.8	10.8
ホル雄	2.5	2.8	3.4	3.8	4.2	4.6	3.3	1.8	1.7	2.1	2.4	2.9